

令和2年度 事業報告 施設名 幼保連携型認定こども園 同朋住吉台こども園

事業年度	定員（人）			児童数(年平均)（人）			充足率（％）			延長保育利用人数（延人数）		園庭開放（他） （延人数）
										3 0 分延長	1 時間延長	
平成28年度	65人	1号	15人	59人	1号	3人	91%	1号	21%	76 人	125 人	79 人
		2, 3号	50人		2, 3号	56人		2, 3号	112%			
平成29年度	65人	1号	15人	59人	1号	8人	91%	1号	52%	53 人	96 人	117 人
		2, 3号	50人		2, 3号	51人		2, 3号	102%			
平成30年度	65人	1号	15人	60人	1号	7人	93%	1号	44%	71 人	54 人	149 人
		2, 3号	50人		2, 3号	54人		2, 3号	108%			
令和元年度	65人	1号	15人	62人	1号	3人	96%	1号	21%	49 人	46 人	89 人
		2, 3号	50人		2, 3号	59人		2, 3号	119%			
令和2年度	65人	1号	15人	60人	1号	8人	92%	1号	55%	27 人	29 人	34 人
		2, 3号	50人		2, 3号	51人		2, 3号	103%			

方基法 針本人	重点目標	計画(P)	実践内容(D)	評価(C)	改善(A)
人権の尊重	同朋福祉会創立者江川義清の「人は大切 子は宝」の理念をもとに、乳幼児を保育する中、人間尊重と子ども第一主義で子どもの最善の利益を追求し、積極的に福祉の増進を図る。	子ども達の遊び（興味・関心・好奇心）から生まれる経験や環境への主体的な関わりを通して豊かで健全な心と体の育成を目指した教育・保育を行い、小学校以降の生きる力の基礎を培う→指導計画へ ・虐待防止・個人情報保護・苦情解決システム	・権利擁護チェックリスト（年2回） ・子どもの人権マニュアル見直し（年1回） ・権利擁護研修（年1回） ・虐待チェックリスト（年3回） ・個人情報・プライバシー研修（年1回） ・苦情解決・守秘義務遵守マニュアル見直し（年1回）	人権研修については外部講師を招いて行うことはできなかったが、職員主体となって研修を行うことができた。今後も継続して実施していきたい。	新年度は、新採用職員が4名を迎えたので、子どもの人権マニュアルを用いて丁寧に人権について伝えていくと共に、全職員参加の研修を、継続して取り組む。
サービスの質の向上	・サービスの明確化 ・保育内容・質の向上 ・健康及び安全	・第三者評価受審 ・委員会活動（年8回） ・保護者アンケート（年3回） ・保護者と共有保育目標作成、評価（年2回） ・登園時の健康状態把握（随時） 日中検温（日々） ・園児一人一人の状態確認（随時）	・第三者評価受審（1月） ・月案会議（月1回） ・個別懇談会（7月）クラス懇談会（2月） ・保護者アンケート（保育・給食計2回） ・園児の検温を行う（一日2～3回） ・園内外のアルコール消毒（随時） ・温度湿度点検（一日3回） ・午睡チェック（日々）	・第三者評価受審に向けた準備を全職員で一丸となって取り組むことができ、それが評価へとつながった。 ・園内の消毒を日々心掛けて、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めるができた。	各種マニュアルや保育環境を定期的に見直し、引き続き保育の質の向上に努めていく
地域との共生	・子育て支援 ・地域との連携 ・世代間交流 ・教育機関との連携	・子育て相談（随時） ・園庭開放や乳幼児子育て応援事業（年96回） ・地域への保育室や運動場開放（地域総会やグランドゴルフ） ・地域福祉センター交流会（年2回） ・小学校連絡会（年2回）	・子育て電話相談（毎週水曜日） ・園庭開放・乳幼児子育て応援事業（年96回） ・地域への運動場開放（第1第3土曜） ・小学校との連絡会（8月・2月） ・地域清掃（年2回）	・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域の方の行事参加は少なかったが、感染対策を行い、少しずつ参加してもらう日を設けることができた。 ・就学前の小学校との連絡会は例年と変わらず行うことができたのでよかった。	地域の方に、園の行事に参加していただき、園を知ってもらおうと同時に、入所につなげる。
人材育成	・職員の質の向上	・スキルアップのためのキャリアアップ研修受講 ・次世代育成のための実習生受け入れ ・研修計画に基づいた外部研修、園内研修	・キャリアアップ研修受講（対象者） ・実習生受入れ（9月11月2月） ・危機管理研修受講（全職員） ・発達支援研修（全職員）	・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止になり受講できない研修があった。今後も同じような状況が起こり得ると思うが、質の向上に向け計画していきたい。 ・例年より実習生は少なかったが、実習受入のある際は、積極的に受け入れることができた。	・キャリアアップ研修参加の際は、出来る限りオンライン等を利用し、参加しやすい環境づくりをする。 ・実習生の受入を、積極的に行い人材確保につなげる。